

2012 四国 神戸ロングドライブ(2)

第2話「尾道→しまなみ海道□土佐高知へ□

□

□**ドライブ2日目**・3/6は、霧が深い朝である。6時から大浴場が使えると聞いていたので、少し早目であったが風呂場を覗く。するとすでに準備は終わっていて入浴できる状態となっていた。**客は私ひとり□嬉しい貸し切り風呂となった**のです。

□お湯の温度は少し高めだが、ちょっと我慢して浸かっていると、この熱さが、だんだんに気持ちよくなります。風呂場の桶も椅子も整然と整えられていて、気持ちが良い目覚めの朝湯となりました。



今日はこれ

から、「**しまなみ海道**」を**通**って、**土佐の高知へと、およそ 210 kmのドライブ**となる予定です。**千光寺山荘**を 8時半ころに出発して、港町のガソリンスタンドで燃料を満タン。□**しまなみ海道**」の**起**点となる「**西瀬戸尾道IC**」に向かいました□



これから通る

「**しまなみ海道**」は、**日本のエーゲ海とも称えられる□美しい瀬戸内海に浮かぶ島を、10の橋でつないだ「西瀬戸自動車道」**です□□**広島県尾道市と愛媛県今治市を結ぶ、総延長 59.4kmの自動車専用道路**となっています□□このルートは**全ての橋に自転車歩行道が併設**されているそうで、のんびり歩いて渡ったり、サイクリングすることが

出来るですよ□

世界に誇る瀬戸内の美しさが、存分に味わえるルートです。 天気は回復が遅れているのか、時折り霧雨に遭います。 最初に渡って行く橋は、尾道と向島を結ぶ



双子橋です□

その橋の名前は、尾道大橋と新尾道大橋で、2つの橋は平行して架かっています□□

□尾道大橋は通勤通学や買い物など生活橋としての役割を果たしている一方、新尾道大橋は自動車専用道路です。この橋を渡ると、「しまなみ海道」の本線料金所です。



そしてさらに進むと、布刈(めかり)瀬戸にかかり、向島と因島をつなぐ「**因島大橋**」に差し掛か



りました。



端正な美し

さを持つこの**因島大橋**は、**上下二段構造になっており、上部は自動車専用道、下部は自転車歩行者道が走っているそうです**□

次に現れた大橋は「**生口橋**」(いくちばし)です。



生口島と因

島を結ぶ斜張橋で、橋の長さは790mだそうです。完成時点では**世界最大の斜張橋**だったそうですよ□□この**生口橋**の建設にあたって採用された様々な技術が、後に、**世界最長の斜張橋 多々羅大橋**を誕生させる大きな力になったそうです□128mの塔の頂上付近から放射されるケーブルは、優雅なハーブの弦のように伸びています。生口島と言えば、この島の瀬戸田町に生まれた有名な日本画家 平山郁夫の美術館があります。

そして次に「**多々羅大橋**」に差し掛かりました。



しまなみ海道の尾道側から4番目の橋で、広島県と愛媛県との県境にかかる橋です。



この橋は完成時には、斜張橋として世界最長を誇り、鳥が羽を広げたような美しい姿だと絶賛する人がいます。この先、小さな海峡をまたいで行きます。尾道から5番目の**大三島橋**を通り、次に伯方島と見近島を結ぶ「**伯方橋**」そして、見近島と大島を結ぶ「**大島大橋**」を通ります。この付近は小さな島が点在し、まさに海の箱庭という感じです。そして、絵のような海峡に差し掛かりました。現れたのは**来島海峡大橋**です。



来島海峡大橋

は、大島と今治の間の約4000mの来島海峡に架かる世界初の3連吊橋です

橋上からは、瀬戸内海国立公園の景勝地として有名な来島海峡の眺めが楽しめます。

□ 来島海峡大橋は、西瀬戸自動車道の中で最も長い橋となります □



こうして、しまなみ海道を渡り終えて、10時30分頃 **来島海峡SA**に到着です。



ここに来てやっと、天気は、ときおり陽射しが見られるまでに回復です。



お茶を飲んでひと休みし、サービスエリアの土産品売り場を覗くと ... 「**今治タオル**」が沢山並



んでいます。

やわらかく、しかも何回洗っても固くなりにくい加工を施してあるそうで、今までにない優しい肌触りを実現しているとか。そしてカラフルでオシャレです。

贈り物にも喜ばれそうな物ですね。



一方、食べ物では、「**しおもち**」と「**坊ちゃん団子**」が目につきました。しまなみ海道限定の塩入りスイーツ「しおもち」は、ミネラル豊富な“伯方の塩”を使用し、厳選小豆のつぶ餡がたっぷり入っている一口サイズのお餅。伯方の塩を使用したコクのある粒餡を、もちりとした食感のお餅で包み込んだ味わいの深い一品だそうです。

それに、**松山**といえば、**夏目漱石**の「**坊っちゃん**」。実際に、漱石が青春時代に旧制松山中学に教諭として赴任していた頃、道後温泉に行った帰りに食べたといわれる団子に因んでつくられたのが、写真に掲載しているような「**坊っちゃん団子**」です。

これが沢山に売られていました。



さて、これから普通に走ると、高知の宿に着くのは、午後1時を過ぎる予定 ... 昼食をとりたいのであるが、高知に着いてからでは少し遅い。そんな思いをしながら走っていると、11:40ころ・**石鎚山サービスエリア**に到着しました。



このサービ

スエリアのレストランのメニューには、私たちの期待の「讃岐うどん」はなかったが、おすすめは「八幡浜ちゃんぽん」だと書いてあります。なので、これを注文してお昼をとることにした。



このレスト

ラン名は「東雲」。今日の天気も、このレストラン名のように、薄日がさしてはいるが「しのめ色」、外気温16 ... 少し風が吹いていて肌寒い。

こちらのサービスエリアでは、四国の山並や瀬戸の島々のすばらしい眺めを楽しむことができます。そしてここは、四国では初となる、**全面芝生のドッグランの設備がある**そうです。ドッグランは広く、シャワー付きの水飲み場、ペット専用ゴ

ミ箱、トイレもきちんと完備されているので、安心して利用できるですよ。



そしてさらに、**石鎚山ハイウェイオアシス館**が、この石鎚山サービスエリアに隣接しているそうです。石鎚の自然が体感できる「**石鎚展示館**」をはじめ、四季折々の石鎚を見せてくれる**写真美術館**や、地域の特産品がどっさり揃う**市場**、**レストラン・お土産コーナー**など、ドライブ途中の休憩はもちろん、レジャー施設としても楽しめる「憩い」と「体験」のオアシスです□

また、平成15年にオープンした、**天然温泉 美人の湯**でおなじみの**椿交流館**（椿温泉こまつ）が併設されていて、**爽快パノラマ眺望の温泉と食事を楽しむことも出来るそうです**□

私たちには、そうした施設を楽しむことは出来ないままに、**今日の最後のロングドライブとなる高知道へと入って行きます**□



□ 高知自動車道

の特徴は、山脈を縫うように走るのではなく、山脈を豪快に横断するもので、トンネル40ヶ所ほど、そして橋が90ヶ所ほどもある ... 代表的な山岳道路です□

□トンネルを目の前にして、大きな山が仁王立ちしているかのように見えます。その山を抜けてもまたその先には山 山 山 ... と、四国山脈の連続です。 たしか、高知道のまず最初のトンネルの長さは、いきなり3km以上もあって、緊張させられたものです。

トンネルは、ただでさえ気を使うのに、それが数えられないくらいに連続すると、道路の高低差もかなりあったようで、運転には非常に気を使った高速道路でしたが、高知ICまで4車線化されていたので、まだ少しは気が楽でしたね。

この長い連続トンネルを通り抜けさえすれば、あっと言う間に高知市内に到着できるのですから、便利な道路と言っても良いでしょう。..... やっと高知の街中に入り



ました。

こうして午後 2 時過ぎ、無事に今晚の宿泊先「城西館」に到着です。



直ぐにチェックインし、部屋に荷物を入れて再び飛び出したのです。そう、今日中に、桂浜の観光をしておきたかったのです。



ホテルから桂浜まではおよそ 30分ほどと近かったですね。初めて訪れる私たちには、龍馬の銅像が、想像していたものとは違って、見上げるほどの大きさにびっくりしたものです。



そこから、さらに石段を下りて、桂浜に出て観ました。物凄い高波が押し寄せていて、波打ち際には近づかないようにと、放送が流れていた位です。





こうして桂

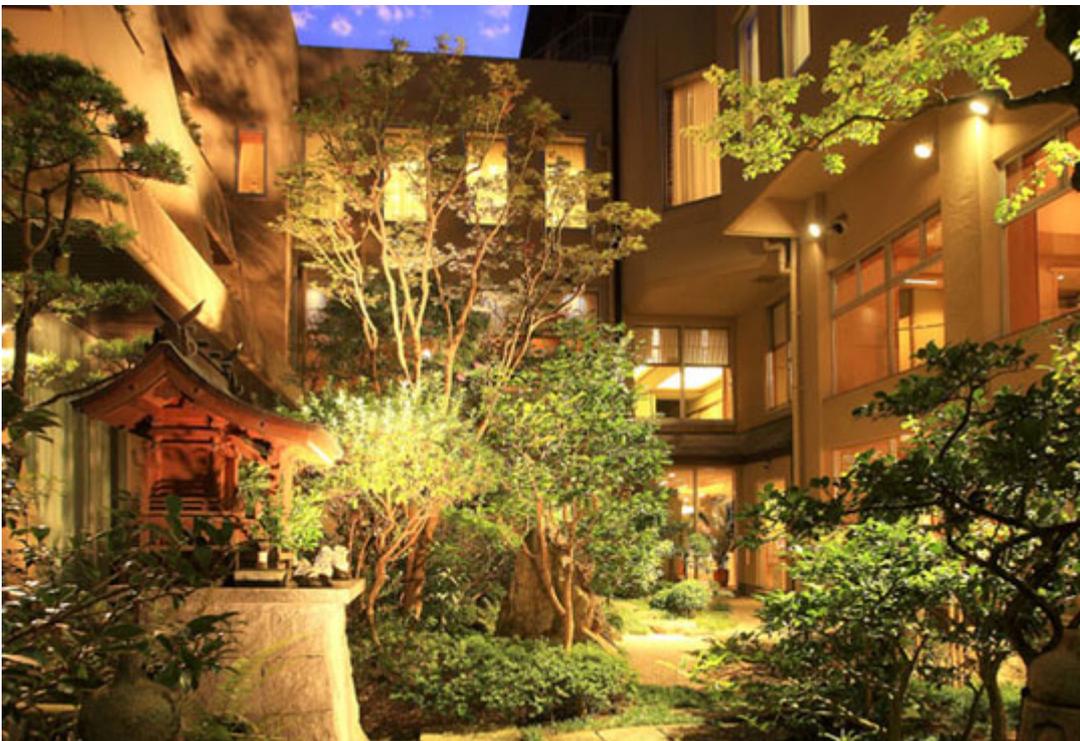
浜の観光を終え、ホテルに午後四時半に戻ったのでした。

□今晚の宿は、土佐に生まれて百三十余年の歴史をもつという城西館です。



□ここは、皇族のご常宿として、また多くの各界の名士の方々が宿泊してきたそうです□

ティーラウンジには、皇室の方々の御写真や、当館の歴史をたどる写真、またお迎えした名士の中でも特に、当館を愛していたとされる吉田元首相の御写真 愛用のウィスキーボトル等、他では見られない展示品がありましたね。



ホテルに戻ってのお楽しみ、まずはお風呂です。最上階に、展望露天風呂がありました□□そこからは、高知城、そして遠くには四国山脈の山並みも眺めます□



□木の風合いが
趣きのある、東屋風の露天風呂になっていて、ジャグジーもついています。 こう
して毎日、大きなお風呂にゆったり浸かれることで、旅の疲れが癒されます。
そして待ちに待った夕食は、2階の季節料理「思季亭」に案内されました。



出された料
理は、本場高知のカツオのタタキはもちろん、土佐湾で獲れた旬の魚介類を大皿に盛り
込んだ皿鉢料理と彩り豊かな会席膳でした。



□土佐沖を流れ
る黒潮に乗ってくるカツオを、一本釣りで獲っていて、昔ながらの松葉や茅の火種
で、一本一本丁寧に焼き上げているそうです。こうすることによって、旨味をとじ
込め、生臭みを消し、風味豊かに香るカツオが戴けるのです。
なかなか美味しく、この夜もついつい、お酒がすすんだものです。

この高知市内での観光を、ホテルのフロントで聞いてみた。
□□高知県立牧野植物園」は如何でしょうか?... と薦められた。

明日の為に、各種のバッテリー類を充電セットし、今日一日が終わったのでした。

□明日は、ここ高知から有馬温泉を目指します□

□... ここまで、ご覧戴いてありがとうございました !!

□ではまた ...